

震災ボランティア尽力20年

黒田裕子さん 島根で闘病へ

阪神・淡路大震災をはじめ、国内外の災害で被災したお年寄りらの支援に取り組んできたNPO法人「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」(神戸市西区)理事長で、看護師の黒田裕子さんが肝臓がんとの闘病を続けており、18日、西宮市の入院先から古里の島根県にある病院に転院した。兵庫県の井戸敏三知事も見送りに駆け付け、長年の功績をたたえて黒田さんに感謝状を手渡した。

(上田勇紀、石崎勝伸)

黒田さんは元宝塚市立病院副総務長で、阪神・淡路を機に退職。仮設住宅でボランティア活動を始め、災害復興住宅に被災者が移ってからも、時には泊まり込みで寄り添った。トルコや中国・四川、ハイチなど海外の地震被災地でも奔走。東日本大震災の発生後は宮城県気仙沼市の仮設を定期的に訪

帰郷前 井戸知事から感謝状



多くの人に見送られて転院する黒田裕子さん＝18日午後、西宮市上鳴尾町、明和病院

れ、震災関連死を防止しようと力を尽くしてきた。黒田さんは8月中旬に体調が悪化。肝臓がんと診断され、同28日に西宮市の明和病院に

入院した。「阪神・淡路から20年を前に、災害からの避難や介護の在り方など提言したい」と黒田さんはベツツドに横たわったまま車に乗り込み、両手を合わせて感謝の思いを表していた。

島根大医学部付属病院緩和ケア病棟への転院を決意。黒田さんは、病室を訪ねた井戸知事に「災害時に関連死を防ぐため、がんや人工透析の患者らを受け入れる環境を整えない」と、か細い声で訴えた。知事は「県が震災20年に合わせてまとめている提言に、病状に応じた福祉避難所の設置を盛り込む」と約束した。